

## あいのりタクシー等運行支援事業の推進に繋がる基盤構築

島根県立大学 地域政策学部

松田 善臣

## 背景

- ・浜田市内には鉄道、路線バス、予約型乗合タクシーなどがあるが、地域によってはこれらの公共交通が利用しづらい地域もあり、特にクルマを運転できない高齢者の外出が困難な状況にあるとの声がよく聞かれた。
- ・高齢者等の交通手段を確保し、生活環境の維持向上、外出機会の創出に寄与することを目的として、2021 年 10 月より「あいのりタクシー等運行支援事業（以降、あいのりタクシー）」が開始された。
- ・本事業は、地区まちづくり推進委員会が企画をして、2 人以上でタクシーやバスなどを貸切って利用した場合に、その費用の一部を補助するものである。
- ・あいのりタクシーの利用者は、300 円～700 円（運行区域、距離によって異なる）でタクシー等を利用することができる。
- ・たとえば、2 人でタクシーを利用しておでかけし、タクシーの運賃が片道 6,000 円だったとすると、利用者 1 人あたりの支払は、700 円（2 人で 1,400 円）で済み、残りの 4,600 円が浜田市から補助される。←とてもお得な制度
- ・あいのりタクシーは、利用者にとってかなりお得な事業であり、多くの利用が期待されていたが、実際にはあまり利用されなかった（表 1 参照、令和 3 年度は半年間、令和 4 年度は 3 月 7 日までの実績）。

表 1：あいのりタクシーの利用実績

| 期間           | 令和 3 年度<br>R3.10.1～4.3.31 | 令和 4 年度<br>R4.4.1～R5.3.7 |
|--------------|---------------------------|--------------------------|
| 実施団体<br>(件数) | 3 団体 (4 件)                | 14 団体 (58 件)             |
| 補助金額         | 85,280 円                  | 997,035 円                |
| 予算額<br>(執行率) | 600,000 円<br>(14%)        | 2,400,000 円<br>(42%)     |

地区まちづくり推進委員会の数：37 団体（令和 4 年 5 月 9 日現在）

## 目的

- ・ あいのりタクシーがあまり利用されていない理由を明らかにする。

## 方法

- ・ 地区まちづくり推進委員会やまちづくりセンターとの意見交換、関係者らへの聞き取り
- ・ 意見交換会などを通してお話を伺った団体数：17 団体

## 結果

### ●あいのりタクシーがあまり利用されていない理由

関係者との意見交換や聞き取りの結果、あいのりタクシーがあまり利用されていない理由としては、以下の 3 点が考えられる。

#### （１）地区まちづくり推進委員会があいのりタクシーのニーズを把握できていない

- ・ 「周知はしているが利用希望者がいない」、「予約型乗合タクシーで間にあっている」、「（運転ができなくなる）ギリギリまで自分で車を運転する。運転ができなくなると、子どもの家に行くか、施設に入る。そのため（あいのりタクシーを含め）公共交通が必要な人が地域に住んでいない」などの回答があった。
- ・ 地区ごとに状況は異なると思われるが、本当にニーズがないのか、既存の公共交通で間に合っているのかについては、現時点では明らかになっていない。
- ・ 外出に困っている人がいるにもかかわらず、ニーズが把握できていない可能性も否定できない。

#### （２）市民に対してあいのりタクシーの周知が十分にできていない

- ・ まちづくりセンターの職員や地区まちづくり推進委員会の一部委員は、本事業の内容を理解している。
- ・ 一方で、地域に住む住民のほとんどは、あいのりタクシーを知らない。
- ・ まちづくりセンターの中には、独自に資料を作成して配布したり、自ら出向いて説明会を行ったりしているところもあるが、まだまだ市民全体には知られていない。
- ・ そのため、あいのりタクシーを必要とする人（必要とする人を知っている人）まで情報が届いていない可能性がある。
- ・ あいのりタクシーを必要とする人がいたとしても、あいのりタクシーのことを知らなければ、当然利用したいと申し出ることもできず、上記（１）で示したように、地区まちづくり推進委員会がニーズを把握できないことにもつながる。

### (3) 2人以上で計画をするのが困難

- ・「通院利用の場合、通院先が違っていたり、予約の時間がバラバラだったりするため、2人以上で計画を立てるのが難しい」、「〇〇さんと一緒に乗るのは嫌だという方もいる（人間関係の問題）」との回答があった。
- ・対象となる人（利用希望者）が多い地域であれば、2人以上で計画を立てることも比較的容易かもしれないが、少ない地域だとかなり困難になる。
- ・1人で利用する場合は、補助率が1/2（2人以上だと10/10）になるため、利用者（あるいは、地区まちづくり推進委員会）の負担が大きくなる。

### ●課題への対応

- ・市がニーズ把握のための具体的な方法を地区まちづくり推進委員会に提供する

ニーズを把握することは容易ではないため、各まちづくり推進委員会がニーズ把握のために行った取り組みについての情報共有を定期的に行い、みんなでより良い方法を考えることが重要である。

- ・あいのりタクシーについて、全市民に向けて積極的に広報する

あいのりタクシーを必要とする人（を知っている人）に情報が届けば、そうした人たちからの利用希望の声が届き、まちづくり推進委員会もニーズを把握しやすくなる。まずは知ってもらうことが必要である。

- ・（ニーズが把握できれば）曜日、時刻をあらかじめ定めた定期運行便を設定し、その運行にあわせて病院の予約等をしてもらう

### ●その他の課題

- ・地区まちづくり推進委員会が料金を立て替えなければならない

現在の仕組みでは、あいのりタクシーの利用者がタクシー等を利用した場合、その運賃から利用者の負担額を引いた差額については、地区まちづくり推進委員会が事業者を支払わなければならない。その後、地区まちづくり推進委員会は浜田市に対して補助金の交付請求を行い、補助金（立替分）が交付される。実質的には金銭的な負担は発生しないが、一時的とはいえ地区まちづくり推進委員会が料金の立て替えをしなければならない。複数の地区まちづくり推進委員会の方から、立替を避けたいとの意見があった。

地区まちづくり推進委員会が立て替えた金額を、後から補助金として浜田市が交付するのであれば、浜田市から直接事業者を支払う方が、立替も発生せずにすむが、

本事業は、地区まちづくり推進委員会への補助事業であるため、浜田市から直接事業者へ支払うということは難しいかもしれない。

地区まちづくり推進委員会の立替を回避するためには、事前の概算払いの方法も検討する必要がある。

- ・地区まちづくり推進委員会が組織されていない地域では利用できない

令和4年5月時点で、浜田市には37の地区まちづくり推進委員会が存在しているが、市内のすべての地域で組織化されているわけではない。本事業は地区まちづくり推進委員会に対する補助事業であるため、団体が設立されていない地域の住民は、あいのりタクシーを利用することができない。

- ・あいのりタクシーの運営を誰が担うか

あいのりタクシーの周知、利用者からの予約受付、事業者への予約、（場合によっては）付き添い、補助金の申請にかかる書類の作成など、事業の実施にあたってはそれなりの手間が発生する。地区まちづくり推進委員会の委員だけでこれらのことを担うのは困難であるため、人的なサポート（まちづくりセンターの職員などのサポート）が必要である。

## まとめ

- ・あいのりタクシーは利用者の負担も少なく、地区まちづくり推進委員会が実施日、時間、目的地を自由に設定できるため、とても使い勝手のよい事業である。しかし、まだ浜田市民に十分に浸透しているとは言えない。
- ・多くの市民にあいのりタクシーを知ってもらい、本当に必要とする人に利用してもらうことが重要である。利用した人の口コミでさらに多くの人に伝わり、さらなる利用増につなげたい。そのためにも、繰り返しになるが、あいのりタクシーをより多くの市民に知ってもらえるよう努力をする必要がある。
- ・実際にやってみなければわからないこともあるため、まずは試行的に実施し、利用者からの声も聞きながら本格実施に向けての検討を行うことが求められる。
- ・最近では浜田市内のタクシー事業者が営業停止をしたり、休業したりするなど、交通事業者の経営はかなり厳しい状況にある。
- ・あいのりタクシーが普及することで、外出に困難を抱えている人だけでなく、交通事業者の支援にもつながる。
- ・立替払いなど制度上の課題については、改善できることから改善を行い、より利用しやすい事業にしていきたい。